

【事例紹介】

ベトナムにおける留学生獲得のための広報活動

—JASSO ベトナム事務所の事例から—

Strategies for Recruiting International Students from Vietnam:
Case of JASSO Vietnam Office

日本学生支援機構ベトナム事務所長¹ 岡田 叔子

OKADA Yoshiko

(Chief Representative, JASSO Vietnam Office)

キーワード：ベトナム、外国人留学生獲得、JASSO ベトナム事務所

はじめに

日本学生支援機構は、近年、急増しているベトナムからの日本留学希望者に対し、正確で具体的な日本留学情報を提供するため、2017年3月に日本学生支援機構ベトナム事務所（以下、「ベトナム事務所」という。）を設立した。筆者は、2017年2月から2019年3月まで約2年間ベトナムで勤務した。

ベトナム事務所は、事務所設立以降、北はハノイ市、南はカンター市まで、ベトナム14都市において日本留学説明会を主催したり、他機関主催の説明会に参加したりしたほか、学生や親から寄せられた1500件以上の留学相談に対応してきた。ベトナム人学生への情報提供のほか、日本からの教育関係者に対しても、ベトナム事情について紹介する機会が多かった。ベトナムを有望なターゲットと考える教育機関が多いものの、現地の事情についてはあまり知られていないように感じた。いくら日本側で質の高い教育プログラムを開発し、受け入れ体制を整えていても、現地の学生にその情報が届いていないのは大変残念なことである。たとえ学生が関心を示しても、ウェブサイトや印刷物の情報がわかりにくく、学生が求める情報が掲載されていないことにより、出願に至らなかった例もあり、もどかしく感じることも多かった。

そこで、本稿では、ベトナム人学生の概況を報告するとともに、ベトナムで広報活動を行う際に留意していただきたい点や筆者が日本からの教育関係者からよく質問された点について紹介することとしたい。

¹ 所属は2019年3月時点

ベトナム人学生の傾向

(1) 外国語能力

ベトナムでは、子女教育に対する教育費の支出割合が増加しており²、幼少の頃から外国語を学ぶ生徒が少なくない³。ベトナムの中学や高校では部活動のようなものが非常に少なく、放課後に学習塾か習い事に行く生徒が多い。筆者がハノイ市内の日本語学校で聞き取りしたところ、学習者は従来、大学生や社会人の学習者が主であったが、近年は中学生、高校生の学習者も増加しているとのことであった。また、筆者がベトナム国内で、専門高校と呼ばれる優秀な生徒を集めた高校の校長や副校長と面談し、生徒の英語能力を聞いたところ、一般的な生徒でも IELTS 5.5 程度の能力があり、ハノイアムステルダム高校では、IELTS 8.0 の生徒も多いとのことであった。英語学習に力を入れる背景としては、留学や就職に有利になるほか、現地の大学入試でも英語能力が選考に重視されている等の背景がある。ホーチミン医科薬科大学では、出願時に IELTS 6.0 または TOEFL iBT 60 点を求めている⁴。ハノイ国家大学外国語大学附属外国語専門高校で聞き取りをしたところ、日本語専攻の生徒のうち、日本語能力試験 N1 に合格している者も珍しくないとのことである。現地の高校で第一外国語として日本語を学習している場合、優秀な生徒は N3、通常は N4 から N5 程度の生徒が多いようである。

(2) 外国留学の傾向

近年、留学するベトナム人が増加しており、特に、優秀な人材や富裕層は留学を希望する者が多い。各国間の留学生獲得競争が激化しており、優秀な人材を惹きつけられる仕組みをどのように維持していくのかが課題であろう。例えば、ニュージーランドでは、ベトナム人だけを対象とした、高校留学を希望する学生のための奨学金を支給している⁵。

² The Economist <https://www.economist.com/leaders/2019/04/13/a-class-apart> (2019年4月13日)

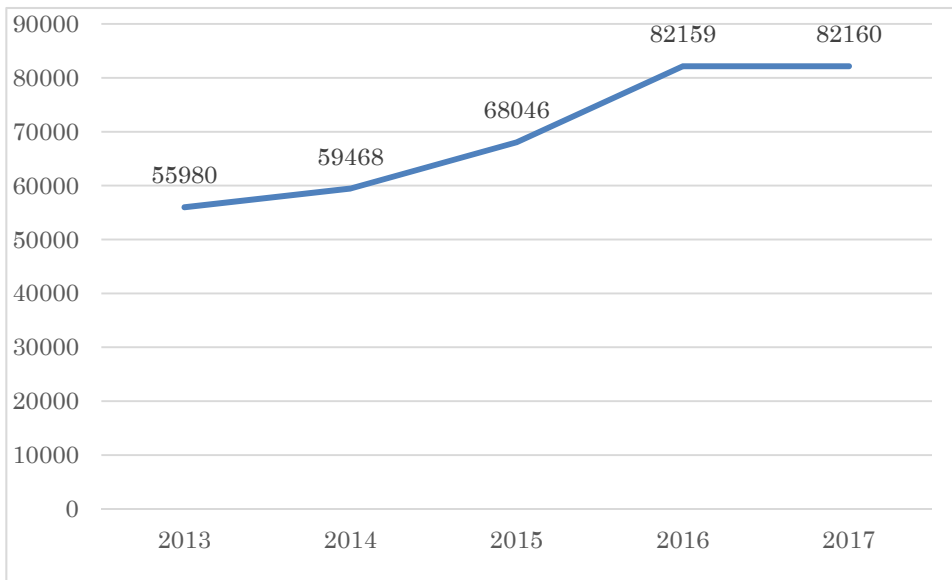
³ JETRO・ハノイ事務所 (2015) 「ベトナム教育産業への進出可能性調査」
https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/reports/2015/pdf/e50df3d0729b4942/201503_advanceRe_VN.pdf

⁴ Vietnam news 「Universities go modern, offer more dynamic courses」<https://vietnamnews.vn/society/505098/universities-go-modern-offer-more-dynamic-courses.html#Xp9ImFR7AEWo6b1M.97> (2019年2月11日)

⁵ Viet Nam News 「Education New Zealand to partner with HCM City Department of Education and Training」<https://vietnamnews.vn/society/483973/education-new-zealand-to-partner-with-hcm-city-department-of-education-and-training.html#WDzq7EdV8jjYKw24.97> (2019年1月19日)

【図表1】 ベトナムから外国へ留学した学生数推移

(人)



出所 UNESCO Institute for Statistics

【図表2】 国別ベトナムからの留学生数

(人)

アメリカ	22,172
日本	19,152
オーストラリア	15,298
フランス	4,400
イギリス	3,979
韓国	3,432
カナダ	2,034
フィンランド	1,894
ロシア	1,447
ニュージーランド	1,297

出所 UNESCO Institute for Statistics⁶⁶ UNESCO Institute for Statistics 2019年5月27日閲覧

(3) ベトナムから日本への留学

日本学生支援機構⁷の調査によると、2018年に高等教育機関で学ぶベトナムからの留学生数は、42,083人であり、2008年と比較すると、約15倍となった。日本において、高等教育機関で学ぶ学生、日本語教育機関で学ぶ学生数の総数298,980人のうち、24.2%がベトナムからの学生である。出身国（地域別）留学生は、高等教育機関では中国に次いで2番目に多く、日本語教育機関では一番多い人数となっている。ベトナム人留学生の大半は、日本語教育機関、専門学校、私立大学・短期大学留学生別科、準備教育課程等に在籍し、学位取得を目的としない課程で学んでいる。

筆者が把握している限り、高校卒業後、直接大学へ留学している生徒のほとんどが、英語プログラムまたは出願時に日本語能力が低くても出願できる留学生向けプログラムに進学している。

ベトナム事務所へ相談を寄せてきた層は次のとおりであり、多様な背景を持った者が日本留学を希望している。

相談者	希望の進学先（主なもの）
高校生及びその保護者	日本語教育機関・大学（学部）
高校生及びその保護者（「家族滞在」の在留資格で在留経験有）	大学（学部）
大学生	日本語教育機関・大学（学部）
大学生（日本語専攻）	専門学校
日本において「技能実習」の在留資格で在留後、ベトナムに帰国した者	専門学校・短期大学・大学（学部）
日本において特定活動（経済連携協定に基づく外国人看護師候補者）の在留資格で在留後、ベトナムに帰国した者	大学（学部）
社会人	大学院（修士課程）
大学の教員、研究員	大学院（博士課程）

2019年4月1日より「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が施行され、新しい出入国管理及び難民認定法（入管法）での外国人材の受け入れが開始されたが、今後ますます、多様な背景を持つ留学生を受け入れていくことになると予想される。例えば「特定技能1号」の在留資格で在留した者の留学も生じてくるのではないかと。最近では、ベトナムに帰国した元留学生が、子供を日本で育てるために再度日本に行き就職するという事例も増えているが、彼らの子弟が在

⁷ 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/index.html

留資格を「家族滞在」から「留学」に変更して進学する可能性もあるだろう。

(4) 留学の動機と留学先の選択

ベトナムでは、若年層の失業率の高さが問題になっており、20代前半の失業者の増加が際立っている。大卒者数が増加しているにも関わらず、希望する就業先に就職できる人数が限られているため、失業者数が高止まりしている（酒向、2018）⁸。実際、学生や保護者からは「ベトナムでは、大学の教育内容が理論偏重で実践的ではなく、実社会で役に立たないため、外国での学位取得で、給与が高い外資系企業への就職力をつけるか、もしくは外国で仕事を見つけたい」という声をよく聞いた。筆者が知る限り、ベトナムの初・中等教育段階においてキャリア教育はほとんどされておらず、学校で生徒が将来について自己分析する機会は皆無であろう。ベトナム事務所へは「就職しやすい職業に関する分野を学びたいので、何を学べばいいのか教えてほしい」という相談が多かった。

ベトナムにおける欧米各国、韓国等の多くの外資系企業では、企業内の共通語が英語であるが、日系企業の場合、日本人駐在員や日本人顧客への対応のために日本語人材を求める企業が多く、日本語能力があることは付加価値となる。そのため「英語学位プログラムで学び、日本語能力が十分ではない場合、就職の機会がどの程度あるのか、どのような就職先があるのか教えてほしい」という相談が多かった。現地の大学で日本語を専攻した学生からは「日本語が話せるだけでは、将来の就職が心配である。仕事に役立つスキルを身に着けるため、観光、マーケティング、ネットビジネス等を学ぶため専門学校に留学したい」という相談が多かった。過去に「技能実習」の在留資格で日本に滞在した者からは「技能実習の経験では、日本語も十分に習得できず、ベトナムで良い就職先を探すのが難しいので、もう一度日本に行って、勉強して、語学と技能を磨き将来の就職につなげたい」という相談があった。社会人を何年か経てから日本留学を希望する者も多く「留学中に結婚しても在留できるか」「家族の呼び寄せが可能か」といった人生設計に関する質問も多く、中には「日本で子育てしたいので留学したい」という者もいた。地方では特に「ベトナムにいてもこれ以上人生が良くならないので、外国で学んだり、働いたりすることで、人生を変えたい」と話す者が多かった。

筆者が、現地の保護者や学生から聞き取りしたところによると、留学先として、まず国を決めた上で、個別の学校を探すとのことであった。国を決める際に考慮する条件として、査証を取得しやすいか、留学先に親戚縁者又は知人がいるか、留学先の国が外国人に対して寛容か、留学先で就職しやすいか、永住権が取得できるか、家族の帯同が可能か等、個別のプログラムを検討する前に、留学先の国に対するイメージや、将来の在留の可能性から国を決め、その後、奨学金や学費減免の経済的支援を受けられる可能性、出願のしやすさといった条件から個別の学校を探すという者が多かった。ベト

⁸ 酒向浩二（2018）「ベトナムの若年層失業問題」<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/as181016.pdf>

ナム事務所に相談に来た保護者に子供を日本に留学させたい理由を聞いたところ、「日本人は時間を守り礼儀正しいので、日本人の道德観や規律を身に着けさせたい」と回答した者が多かった。このような印象を持つのは、災害時の避難所の様子や、小学校での給食や清掃風景の映像が影響しているようだ。

(5) 日本の教育機関に対する認知度と出願先の選択

ベトナムでは、日本の大学の認知度が低い。現地の留学希望者に知っている大学を聞いたところ、日本国内における知名度と現地での知名度は関係なかった。ベトナムで知名度の高い大学は、現地に事務所を置き、渡日前入学許可を実施し、広報活動を積極的に行っている大学、あるいは現地やインターネット面接等で、給付奨学金の選考を行っている大学であった。次いでグローバル30に採択され、学部英語プログラムを実施していた大学の名前があがった。なお、現地では、グローバル30プログラムとは奨学金付き英語プログラムであるという認識をもつ者が多く、同様に、スーパーグローバル大学も留学生向けの奨学金プログラムを提供する大学であると誤解する学生が多い。

希望の進学先として個別の大学をあげた学生は少なく地方の学生は特に「寒冷地が苦手であるため南方の学校へ行きたい」「地方はベトナムの田舎のように田畑しかなく、つまらないのではないか。アルバイト先が容易に見つかる大都市へ行きたい」と漠然とした希望を述べる学生が多かった。保護者は「有名な大学を教えてほしい」と話す者が多い。志望大学の検討にあたり、ウェブサイトの情報だけでは、大学の違いを比較しにくい上、学問分野が想像できない学部名が多く、大学のウェブサイトをざっと見たところで、自身にあう大学かどうか、自分が学びたい分野が学べるかを判断するのは困難である。また、学生が英語で情報を得ようとする場合、英文サイトのコンテンツが少ないことが多く、限られた情報の中で判断しなければならない。そのため、学生はプログラムの内容ではなく経済的支援の充実度、入学の実現性、出願の手軽さで進学先を選びがちである。

学費については、学費の総額よりも授業料減免の減免率を重視する傾向がみられた。現地では「授業料免除、半額免除」は、「100%奨学金、50%奨学金」という言い方が浸透している。

渡日前入学許可により日本の大学に合格した学生に「どうやって大学を見つけたか、なぜその大学を選択したのか」たずねたところ「高校生の時、短期プログラムで大学を訪問した」「ベトナムで大学の説明会に参加したところ説明者の印象がよかった」「家族や知人が在籍していた」といったように、実際に訪問したり、大学の教職員と関わりがあったり、身近な知り合いの勧めがあると、実際の出願に結びつくようである。合格通知が出た学生からは「留学先の大学に留学中あるいは留学後のベトナム人の先輩に直接質問したいので、誰か紹介してほしい」という依頼が何件か寄せられた。身内や先生、実際の体験者等、信頼できるベトナム人からの情報を得たいという者が多い。また、渡航前は、空港からの移動、住居探し、電話契約、学校周辺の環境の様子等、生活する上での不安も大きいため、

合格が決まった後も、実際の先輩からのアドバイスを希望する学生が多い。大学関係者や先輩から直接情報を得る機会がない場合、自力で情報収集できず、留学斡旋業者に勧められた学校へ進学する者が多いと思われる。

学生の留学後も、子供の安否について、母語で確認したいと話す保護者も多い。留学後の相談体制の充実さも進学先決定の一つの要因であろう。

(6) 日本留学のための予備校

日本の大学は、日本留学試験（以下、「EJU」という。）の受験や大学独自の筆記試験を課す場合が多いが、それらの準備を自習で行うのは大きな負担である。いくら学生の学力が高くとも、日本とベトナムでの履修内容や試験の出題スタイルが異なるため、数学等の基礎科目の受験のために準備が必要である。ベトナム国内でEJU対策を実施している学校は、筆者が知る限り、ハノイ市、ホーチミン市あわせて数校程度である。日本において、EJU対策を行っている日本語教育機関であっても、中国語で授業を行っていたり、日本語能力試験N1やN2以上の学生のみを対象としたりしている学校もあると聞いている。また、EJUの参考書は、筆者が知る限り、英語版、ベトナム語版によるものがない。学生からは、英語版またはベトナム語版参考書の出版を望む声が多い。

一方で、EJUのベトナム人受験者は日本、ベトナム双方で増加しており、学位取得を希望する学生は多い。しかし、学位取得を目的としない課程で学ぶベトナム人学生が多い要因の一つは、日本語習得の困難さだけでなく、基礎科目の学習をサポートする体制が整っておらず、学部課程に合格するまでの学力に達していないことも要因の一つであろう。

日本の教育機関から寄せられた質問及び広報の留意点

ベトナムは、法制度が未整備であり、運用が不透明、地域によって運用が統一されておらず、制度も頻繁に変更され、担当者により要求が相違することも多い⁹。よって本章で述べる事例はあくまで筆者が見聞したり経験したりした事例であり、全ての場合にあてはまるわけではないことをご留意いただきたい。

(1) オンライン広報

JETRO「ベトナムコンテンツ調査 2017年版」¹⁰によると、インターネットに接続するデバイスとしてスマートフォンからと回答した者が過半数にのぼる。情報収集は、facebookが中心であり、疑問点があったら、facebook上のグループに質問することが一般的である。毎日動画を閲覧する者が過半数

⁹ JETRO「ベトナム進出日系企業の7割が事業拡大方針、内需獲得に向けた動きも」

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0501/de5e7bae5ed8942b.html> (2019年6月2日閲覧)

¹⁰ https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2018/2da6ef414ff0d4e2/vn-contents.pdf

にのぼり、ベトナム事務所の facebook も、動画を掲載した際の反応が良い。

ベトナムでは、情報発信を気軽にする者が多いが、インターネット上には偽の情報が多い。ベトナムの留学斡旋業者の中には、自社のウェブサイト上に、当該業者と関係がない大学の情報を、大学の了承を得ることなく掲載し、その大学への問い合わせ先を自社に誘導している事例が見受けられた。親は、留学斡旋業者の情報が真実かどうか確認したくても、日本語を解さないため、自身で真贋を判断するのは困難である。悪質業者の中には、当該業者と関係のない大学の偽奨学金受給証書を発行した例もある。親からは、日本の大学を実際に見学できるツアーがあれば、親子で参加したいので紹介してほしいという問い合わせも多かった。

(2) 高校ランキング

日本の大学からは、留学生向け学部プログラムの広報にあたり「学力の高い生徒に広報したいのでベトナムの高校ランキングを教えてほしいという」という問い合わせが多かった。まず、ベトナムの高校の設置形態について確認したい。ベトナムの高校は国が設置した高校のほか、一部民営化した高校、私立高校がある。国が設置した高校のうち、大学付属高校と、各地方の教育訓練局が管轄する高校に分かれる。高校卒業資格 (Bằng tốt nghiệp trung học phổ thông) が得られる高校のコースには、専門科と普通科がある。専門科をもつ高校は、通常、専門高校 (high school for the gifted) と呼ばれる。専門高校は、特定の科目を重点的に学ぶ課程を持つ高校であり、数学、物理、化学、生物、情報工学、文学、歴史、地理、外国語 (英、仏、露、日、中) のように科目に特化し、優秀な生徒を募集している。専門高校は、国家大学等の付属高校として設置されている高校もあれば、各地の教育訓練局が管轄する専門高校もある。教育訓練局が管轄する専門高校は、中央直轄市や各省に1、2校程度設置されている。一部の専門高校では、ベトナム国法で定めるベトナムの教育課程と並行して、GCE-A レベル資格取得を目指す課程を英語で実施している。普通高校は、ベトナム国法で定めるベトナムの教育課程を提供している。ハノイ市の場合、市内はいくつかの学区に分けられており、生徒は、指定された学区内の高校の中から学力に応じて出願する。私立高校は、ベトナム国法で定めるベトナムの教育課程を提供する高校と、外国の教育プログラムに則り、インターナショナルバカロレア等、外国の修了資格を授与する高校がある。なお、ベトナムの一部の学校の中には、外国のカリキュラムを参考とした課程で教育を行っていても、国際的な認可団体から認可されていない教育機関があるため、注意が必要である。

日本のみならず、諸外国の大学のリクルーティングは、ハノイ市内の専門高校 (例 国家大学付属高校、ハノイアムステルダム高校及びハノイチューヴァンアン高校) に集中しており、これらの高校への訪問希望者が大変多い。これらの高校は、世界各国の大学の中から選択できる環境にある。魅力的な奨学金を提示しなかったり、大学の国際的な知名度が低かったりする場合、訪問を受け入れなか

ったり、訪問料を求めるケースもある。そのため、各大学はターゲットとなる高校の教員を招へいするなどして、高校関係者と関係を構築している。

これらの専門高校以外にも優秀な生徒が在籍する高校は数多い。例えば、国際数学オリンピック等でメダルを受賞する生徒が在籍している地方の専門高校（例 タインホア省ラムソン高校、ゲアン省ファンボイチャウ高校）もある。リクルート先としては、学力が高い生徒が集まる普通高校や、ハノイ市、ダナン市、ホーチミン市以外の高校を候補に加えることも一案であろう。ベトナムでは、地方の専門高校でも、第一外国語として日本語を教えている高校があり、そのような高校の生徒は日本への関心も高い。なお、日本語教育を実施している高校や教育機関は国際交流基金のウェブサイト¹¹を参照していただきたい。

ベトナム政府としての公式高校ランキングは公開されていない。参考にホーチミン国家大学の入学試験において、優先入学枠が配置されている高校リスト¹²を紹介する。このリストに掲載された高校は、大学付属専門高校、各地の専門高校、国家高校卒業試験の成績上位高校である。

参考に、大学付属専門高校及び中央直轄市（ハノイ、ホーチミン、ハイフォン、ダナン、カントー）における専門高校及びその他所在地において日本語教育を実施している高校及び中央直轄市における普通高校のうち成績上位校を抜粋する。番号は、当該リストに掲載された番号である。日本語名称は筆者の仮訳である。なお、同名の高校が複数都市に存在するが、別の教育機関である。

ホーチミン国家大学 2019年入学募集要項「付録1 優先採用の対象となる高等学校の一覧」の抜粋

大学付属専門高校

（ハノイ市）

1. ハノイ師範大学付属専門高校
2. ハノイ国家大学自然科学大学付属専門高校
3. ハノイ国家大学外国語大学付属専門高校
4. ホーチミン国家大学付属英才高校
5. ホーチミン師範大学付属英才高校
6. ヴィン大学付属専門高校（ゲアン省）
7. フェ大学フェ工科大学付属専門高校
8. タンタオ大学付属専門高校（ロンアン省）

各地域の専門高校（中央直轄市に所在する高校及び日本語教育実施校を抜粋）

¹¹ <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/index.html>

¹² http://tuyensinh.vnuhcm.edu.vn/kcfinder/upload/files/TS2019/Phu%20luc%201_Danh%20sach%20cac%20truong%20THPT%20TXT%20theo%20quy%20dinh%20cua%20DHQG-HCM%20nam%202019.pdf

(ハノイ市)

9. ハノIAMステルダム高校
10. グエンフエ高校
11. チューヴァンアン高校
12. ソンタイ高校

(ホーチミン市)

13. レホンフォン高校
14. チャンダイギア高校
15. グエントウオンヒエン高校
16. ザーディン高校

(ハイフォン市)

17. チャンフー高校

(ダナン市)

18. レクイドン高校

(トアティエンフエ省)

33. クオックホック高校

(ゲアン省)

42. ファンボイチャウ高校

(ビンディン省)

51. レクイドン高校

(ビンズオン省)

60. フンヴオン高校

(バリアブンタウ省)

70. レクイドン高校

(カントー市)

73. リートウチョン高校

2016年、2017年、2018年における国家高校卒業試験の成績上位高校（中央直轄市に所在する高校を抜粋）

(ハノイ市)

1. キムリエン高校
2. グエンザーチウ高校
3. グエンタットタイン高校

4. グエンティミンカイ高校
5. ファンディンフン高校
6. ファムホンタイ高校
7. タンロン高校
8. イエンホア高校
(ホーチミン市)
9. チュンヴオン高校
10. ブイティスアン高校
11. ルオンテヴィン高校
12. レクイドン高校
13. グエンティミンカイ高校
14. チャンカイグエン高校
15. グエンフエン高校
16. グエンズー高校
17. グエンヒエン高校
18. グエンコンチュー高校
19. チャンフー高校
20. フーニュアン高校
21. グエンフーフアン高校
22. グエンフーカウ高校
23. グエンフエン高校
(ハイフォン市)
24. ゴクエン高校
25. タイフィエン高校
26. キエンアン高校
(ダナン市)
27. ファンチャウチン高校
(カントー市)
28. チャウヴァンリエン高校

(3) 高校のアポイント取り付けと訪問

ベトナムでは、地方の教育訓練局が管轄する高校を訪問する場合、原則として、管轄する地域当局

からの許可が必要である。申請方法は、管轄地域、訪問先との関係、仲介者、連絡ルートによって異なることが多いので高校に確認が必要である。一般的に、ベトナムにおいて、外国人が現地の教育訓練局が管轄する高校を訪問する場合、校長、教育訓練局、対外局（現地当局の外国との窓口を担当する部門）の許可が必要である。なお、大学の付属高校の場合、大学の許可を取り付ければ、教育訓練局や対外局の許可が不要であることが一般的である。ベトナムの高校には対外的な窓口を担当する教員や進路指導を担当する教員が少ないことが多い。なお、アポイントの取り付けは、その高校の卒業生、現地政府の高官等、訪問先高校と接点のある人を通じて行うことを勧めたい。

ベトナムの場合、学校共通の公開電子メールは、頻繁に確認されていないことが多い。現地での連絡方法は、個人の携帯電話に電話をかけるか、SMS サービスを使ってメッセージを送る方法が一般的である。

日本では、日程に余裕をもってアポイントの依頼をすることが多いが、ベトナムの場合、数か月前から数週間前にアポイントを依頼しても対応してもらえない。通常、訪問の数日前から前日ではないと、訪問の可否の返事を受け取れない。また、前日、当日のキャンセルや時間変更が多いため、前日か当日に再確認の電話が必要である。

ベトナムの高校では、面談時の相手方は校長あるいは副校長が多いが、英語を解さない可能性が高いため、ベトナム語通訳者を同行させたほうがよい。

（４）高校訪問の時期、高校生への広報時期

ベトナムで高校生を対象に広報活動を行う場合、現地の学事歴を理解しておくことが必要である。一般的な学事歴は次のとおりである。

8月中旬 新学期開始
 10月 中間試験
 11月20日 先生の日
 12月 学期末試験
 1月下旬～2月 テト（旧正月）休業
 3月 中間試験
 5月 学期末試験
 6月下旬 国家高校卒業試験
 7月～8月 夏季休業

現地教育機関への訪問は、9月から10月、12月、4月から5月はアポイントを取り付けやすい。一

方、先生の日（11月20日）、ベトナム女性の日（10月20日）、国際女性の日（3月8日）は、各種式典や行事が開催されることが多い。6月下旬は国家高校卒業試験の実施、7月下旬から8月上旬は夏季休業により、教職員、教育当局の職員が不在にしている可能性が高い。テト休業の前後2週間は、現地の年末年始にあたるため、訪問を避けたほうがよい。現地高校生向けの説明会開催時期としては、新学期開始直後である9月から10月、あるいは、4月から5月に開催すると、生徒が参加しやすいであろう。

（5）説明会の参加・開催

個別の大学による留学説明会の多くは、ホテルの会議室や日本語学校で実施されることが多い。留学フェアは、教育訓練省が主催するもののほか、民間業者が主催するもの、インターナショナルスクールが主催するもの等数多い。また、ベトナム各地で「日本祭り」が開催され、日本各地の自治体が観光案内ブースを出展しており、その中で地域の大学を広報している場合もある。当機構は年に1回、ハノイ市とホーチミン市で留学フェアを主催しているほか、ベトナム事務所主催でも留学説明会を開催している。

ベトナムにおいては、外国人が参加する集会、外国の支援を受けたベトナムの機関や団体によって組織された会議やセミナーの開催には、当局への事前許可申請が必要である。現地の教育訓練局が管轄する高校において、学校を通じて生徒にチラシを配布する場合や生徒向けに留学説明を実施する場合も、事前の許可申請を求められることが多い。なお、2018年5月現在、ホーチミン市教育訓練局が管轄する高校において、外国の教育機関が奨学金や大学紹介の留学相談や留学説明会を実施することは禁止されている¹³。

大学の中には、現地での広報業務、説明会開催の業務を委託する場合もあろうかと思う。ベトナムで活動する企業は、実施する事業について事業を管轄する当局からの許可が必要である。現地の教育機関への広報、留学説明会等のイベント開催、出願補助等、各委託内容に対応できる事業ライセンスを持っているか、委託先へ確認することが必要である。

（6）印刷物発送

現地での教育展出展や関係機関へ印刷物を配布するため、国際郵便（EMS）や国際宅配便で、日本から印刷物を国際輸送する場合がある。日本からベトナムへ送付した荷物の通関手続きは、現地の受取人が行わなければならない。現地宿泊先に送付する場合、ホテルは輸入手続きを行わないので、荷物が税関に留め置かれたままになる可能性が高い。また、ベトナムでは印刷物の検閲制度があり、日

¹³ Dan Tri 「高校の構内での留学アドバイスを禁止」 <https://dantri.com.vn/giao-duc-khuyen-hoc/cam-truong-nuoc-ngoai-tu-van-du-hoc-trong-khuon-vien-truong-hoc-o-tphcm-20180528144236909.htm>（2018年5月28日）

本から送付された印刷物の検閲を求められる場合が多々ある。その場合、受取人が当局に対し検閲の申請を行い、検閲の許可証を得て、通関手続きが可能となる。なお、規制は頻繁に変わるため、送付の際は、確認されたい。

(7) 通訳、翻訳時の注意

ベトナム人の通訳者、翻訳者を手配する場合、彼らは日本の教育制度を理解していない可能性が高いため、大学名、関係者の職名、氏名等の固有名詞の翻訳方針を確認しておくことが望ましい。

大学名の訳語について、日本語と一対一で対応するベトナム語の単語がない場合、誤訳や訳語の揺れが生じやすい。翻訳にあたっては、和文名称から訳すのか、英文名称から訳すのか、音から訳すのか、意味から訳すのか、一般名詞の部分をどう訳すのかを確認したほうがよい。

特に、大学名が固有名詞と一般名詞の組み合わせである場合、注意が必要である。ベトナムには県立大学、市立大学という概念がないので「市ヶ谷大学（国立）、市ヶ谷県立大学、市ヶ谷市立大学」のような大学名の場合、通訳者はどれも「市ヶ谷大学」と訳しがちである。また、「工科、工業、技術、技術科学、先端技術」のように類義語が多い一般名詞が含まれる場合も通訳者は適当に訳しがちであり、別の大学の訳語と同一となる可能性もある。

現地語の資料を読んだ学生や親は、現地語に訳された大学名でインターネット検索する可能性が高い。同一文書内で、同一の固有名詞が異なる訳語となると、統一性がなくなり混乱を招くので、訳語が統一されているか確認が必要であろう。また、大学の公式ウェブサイト上に、大学名だけでも、公式の訳語が掲載されていると、学生や親にとって利便性が高くなるであろう。

このほか、現地の大学のウェブサイト上に、協定校である日本の大学名が現地語で掲載されていることも多いことから、協定校へも正式な訳語を連絡しておくことが望ましいだろう。

翻訳方針の作成にあたっては、観光庁「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」¹⁴が参考になろう。

(8) 国家高校卒業試験の成績

ベトナムの大学では、入学者の選考において、国家高校卒業試験の結果を利用する。どの大学も合格基準点を公開している。ベトナムの生徒は、公開された点数をもとに、出願先を決定する。

¹⁴ 観光庁「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」
<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>

【図表3】ハノイ工科大学 国際連携コース 出願要件の点数

コース名（連携大学）	2018年 点数
電気機械電子工学（長岡技術科学大学 日本）	20.35
電子・電気通信（Leibniz Hannover 大学 ドイツ）	18
情報技術（La Trobe 大学 オーストラリア）	20.5
情報技術（Victoria 大学 ニュージーランド）	19.6

科目グループは、数学・物理・化学、数学・化学・英語または数学・物理・英語のいずれかを選択
Vietnam Net ウェブサイト¹⁵の情報を基に筆者作成

【図表4】ハノイ貿易大学 出願要件の点数

科目選択グループ	2018年 点数
数学・物理・化学グループ	20.5
数学・物理・英語グループ	20.5
数学・文学・英語グループ	20.5
数学・文学・ロシア語グループ	20.5
数学・文学・フランス語グループ	20.5
数学・文学・中国語グループ	20.5
数学・文学・日本語グループ	20.5
数学・化学・英語グループ	20.5

Vietnam Net ウェブサイト¹⁶の情報を基に筆者作成

まとめ

本稿では、筆者のベトナムでの経験をふまえ、ウェブサイトや印刷物等、一方通行的な広報を中心に留意点を紹介させていただいた。しかし、実際の出願に至るのは、大学関係者と双方向のやりとりがあった場合だと感じている。

筆者は、ベトナム人学生やその保護者と面談してきたが、何を学びたいのか、将来どうなりたいの

¹⁵ <https://vietnamnet.vn/vn/giao-duc/tuyen-sinh/diem-chuan-truong-dh-bach-khoa-ha-noi-nam-2018-468210.html> (2019年5月31日閲覧)

¹⁶ <https://vnexpress.net/giao-duc/dai-hoc-ngoai-thuong-cong-bo-diem-san-xet-tuyen-3775945.html> (2019年5月31日閲覧)

かをよく考えている学生は少数であった。日本に留学中の学生からは「留学先の学校が期待に反しているので転校・転入学したい」という相談もしばしば寄せられた。こういった相談が相次ぐのは、事前の情報収集が不十分で、学生自身の目的意識が希薄であることも一因であろう。しかし、相談者は勉強意欲の高い学生が多かったが、本人の予想に反し、進学先の教育の質が低く、より勉学に集中できる学校に移りたいという学生が多かった。今後は、日本留学情報を提供するにあたり、一方通行の情報提供ではなく、学生の背景を理解し、学生本人に将来について考えさせ、将来の就職や計画もふまえて、対話をした上で、本人が納得して出願先を決定し、入学後の学びにつなげてもらうことが重要だと感じた。

ベトナムは親日国であると言われており、ありがたいことに、筆者が予想した以上に、日本に関心を持ち、日本で学びたいというベトナム人が多かった。そうした学生や親の期待に応えるためにも、ぜひ、各大学におかれては、貴学の魅力をベトナムの学生に伝えていただき、一人でも多くの優秀な学生を受け入れていただけると幸いである。

参考文献

杉田 昌平 (2019) 「外国人材受け入れガイドブック」 ぎょうせい

篠崎 裕二 (2013) 「日本留学のリクルーティングの課題 - 諸外国の先進事例をふまえて - 」

日本学生支援機構ウェブマガジン『留学交流』2013年4月号

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2013/04.html>